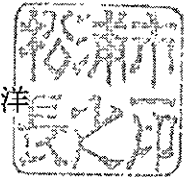


20 松 建 第 7 3 2 号
平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 様

松浦市長 友 広 郁 洋



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付 国道企第 37 号にて依頼がありました標記の件について、別紙のとおり意見書を送付いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

道路特定財源に余剰が生じているというのはあくまで国費ベースの話であり、地方自治体は道路整備のために厳しい財政から多額の一般財源を投入しているのが実情である。

道路整備に関する要望

1. 道路特定財源の一般財源化にあたっては、納税者の意見を十分に踏まえた上で結論を得るとともに、財源配分のあり方や各地方団体へ影響を十分に検証し、必要な道路整備財源を安定的に確保すること。
2. 地域の実情に対応した道路を整備するため、今後も、地方団体の財政力に応じた交付率の引き上げなどを含んだ、自由度の高い交付金制度を継続すること。
3. 新たな道路整備計画の策定にあたっては、地方の意見を十分に反映する仕組みを取り入れるとともに、地方にとって必要な道路整備を確実に盛り込むこと。
4. 高規格道路の人口密度での都市型整備から、面積に対する道路密度での整備判断で地方の発展を図ること。

②-1 地域の現状と抱える課題

○ 現状	○ 課題
松浦市における通勤・通学の自動車交通への依存度は68%で、全国平均(44%)、九州平均(55%)と比べて格段に高く、道路の果たす役割は非常に大きい。 このため、市民からの市への要望事項の7割近くは道路整備に関するものとなっている。	市の財政事情が厳しく、道路整備についてはほとんどの要望に応えることができない状況であるが、少なくとも救急時や災害時において十分対応できるような道路網の整備を図らなければならないと考えており、そのための財源確保が大きな問題である。
日本有数のあじ、さばの水揚げと、日本一の養殖トラフグの生産量を誇る松浦市は、水産業を主要産業としている。水揚げされた鮮魚のほとんどが東京(築地)や関西等の市場に陸上輸送されている。	漁獲量の減少や輸入魚の増大によって魚価が低迷するなか、安定した魚価を維持するためには、鮮度を保った状態で消費地の市場に送ることが必要であり、大都市圏との時間距離をいかに短縮するかが大きな課題である。
市内に雇用の場が少ないため、若年層を中心として都市部への人口流出が進み、地域経済の活力が低下している。	企業誘致や既存企業の規模拡大など、働く場の確保による定住対策を図る必要がある。企業が立地を検討する際には、現地の交通事情が大きく影響することから、市内における道路網の整備が今後の課題となる。
離島である松浦市鷹島町と佐賀県唐津市肥前町との間に、平成20年3月に橋が開通予定である。	鷹島の歴史(元寇)と食(トラフグ等)を生かし、福岡都市圏を中心に観光客を呼び込む予定であるが、観光バス等大型車両で島内を観光できるような道路整備を進める必要がある。
農家・漁家への民泊や農林漁業体験を通して、豊かな食文化や生活文化、農水産物の価値や家族の絆というものを都市部の中・高校生に伝えることでコミュニケーション能力を高め、生きる力を育む「体験型観光」を実施し、大きな成果をあげている。 平成20年度には 16,000 人を受入予定。すでに、平成21年度には 20,000 人の予約が入っている。	福岡空港や博多駅、長崎空港から約 2 時間を要するため、体験の時間が十分にとれないという声があがっている。高速交通網の整備による都市部との時間距離の短縮が大きな課題である。

②-2 地域の目指すべき将来像

「次代をはぐくむ 産業創造都市 まつうら」

構造改革、地方への権限委譲という時代の流れのなかで、地方自治体(市町村)は、これまで国や県に依存していた体質を改め、財政状況が厳しい現実を踏まえて重点的な施策の展開を図り、効率的な行財政運営を進める必要がある。国、県から多くの支援が見込めなくなるなか、本市においても自らの財政基盤を強化しなければならないという点において、歳入財源である税収の確保は喫緊の課題といえる。

そのためには、松浦市がもつ地域資源を活かした産業振興や企業誘致による産業集積を進め、雇用機会の拡大をはかることによって市民所得の向上を図る必要がある。また、活力ある土台をつくっていくことにより税収を増やすことが、健康、福祉、教育といった多様な行政サービスの質的向上へとつながっていく。

松浦市総合計画においては、市のこれから目指す将来像を「次代をはぐくむ 産業創造都市 まつうら」と位置づけ、次の2本の柱に沿って、活力あるまちづくりの実現に向けた施策を展開していく。

産業振興であらたな活力を生み出すまちづくり

将来にわたり自立したまちづくりをすすめるためには、農林水産業や商工観光業などの既存産業の安定した発展と既存企業の活性化、企業誘致による新分野の産業創造をはかり、市民所得の向上と雇用機会の創出に取り組む必要がある。

大きな社会変革のなか、既存産業は高齢化や担い手不足、価格の低迷などさまざまな問題から厳しい経営を強いられているが、これらの課題に対応するには、後継者の確保や新技術の導入、地域産物の付加価値を高めるといった取り組みを進めなければならない。

また、本市が取り組んできた積極的な企業誘致が実を結び、多くの企業が進出してきたが、今後も、さらなる雇用の創出をはかるため、既存企業の活性化や企業誘致に全市的に取り組む必要がある。

これらを実現により市民所得の向上と新たな雇用を創出することを目指し、「産業振興であらたな活力を生み出すまちづくり」を進めていく。

自然と人のぬくもりに囲まれた住みよいまちづくり

海と緑に恵まれた豊かな自然と人、そして産業が共存する住みよいまちづくりを進めるために、土地の有効活用と都市基盤の整備、および自然に配慮した災害に強いまちづくりを進めると同時に、誰もが住みなれたまちで安心して暮らすことができるまちづくり、また、地域コミュニティの活性化や地域間交流の推進により、市民が生涯にわたって暮らしたいと思える「自然と人のぬくもりに囲まれたまちづくり」を目指していく。

この2本の柱の実現のためには、最も基礎的な社会資本である「道路」の整備が必要不可欠である。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	体験型観光 農家・漁家での貴重な体験をととして、コミュニケーション能力を高め、生きる力を育てるとともに、農林業や漁業の魅力及び資源の重要性を認識してもらい、農漁村環境や文化を維持・継承していく体験型観光を実施している。	道路整備によって移動時間が短縮されることにより、体験の時間を増やすことができ、より充実した体験学習が可能になる。 また、体験型観光による滞在が長くなることにより、地元商店などにも大きな経済波及効果が期待できる。	
〃	グルメ観光事業 交流人口増大に向けた取り組みとして、福岡都市圏等をターゲットとしたグルメツアーを開催し、松浦市が全国に誇る旬の味覚「松浦とらふぐ」、「旬あじ」、「旬さば」を味わってもらっている。	道路整備によって移動時間が短縮されることにより、福岡都市圏を中心に「食」を目的とした入り込み人口の増大が期待できる。 また、観光旅行は安・近・短が主流となっているため、移動時間の短縮は営業面においてもPR効果が大きい。	
〃	企業誘致の推進 定住人口の増大及び市民所得の向上を図るために、内陸型工業団地(3.5ヘクタール)を整備中。	道路整備(西九州自動車道)は、企業訪問の際に大きなアドバンテージとなるほか、本市が望む大型製造業の誘致が可能となり、雇用の確保、市民所得の向上が図られる。	
〃	物流 松浦市が全国に誇る水産物、農産物の陸路による搬送については、最寄の高速道路まで1時間以上を要している。	西九州道路の整備によって時間距離を短縮することで、販路拡大が期待できる。	
安全・安心の確保	救急医療 急患発生時に、市内道路が未整備のため、救急車の到着が遅れることがある。また、専門医が少ないため、高度な二次医療を受けるためには、都市部の救急病院まで搬送する必要がある。	道路整備によって救急搬送の時間が短縮されることで、重篤な患者の救命率の向上が期待できる。	